

第48回

福島県児童・生徒木工工作コンクール

表彰式

開催日時 令和5年11月25日(土) 午前11時～12時

開催場所 クレールコート(いわき市内郷)

福島県木材青壮年協会

式 次 第

【表 彰 式】

1. 開 会
2. 挨 拶
3. 来 賓 紹 介
4. 講 評
5. 表 彰
6. 祝 辞
7. 閉 会

【記 念 撮 影】

出席者名簿 (敬称略)

【ご 来 賓】

福島大学人間発達文化学類教授	新 井 浩 (あらい ひろし)
関東森林管理局磐城森林管理署次長	藤 井 弘 行 (ふじい ひろゆき)
福島県農林水産部林業振興課主幹兼副課長	佐 藤 淳 (さとう じゅん)
いわき市農林水産部長	渡 邊 伸一郎 (わたなべ しんいちろう)
福島民報社いわき支社長	円 谷 真 路 (つむらや しんじ)
福島県木材協同組合連合会専務理事	前 田 洋 (まえだ ひろし)
NHK福島放送局長	細 田 修 二 (ほそだ しゅうじ)
福島テレビいわき支社長	鈴 木 孝 雄 (すずき たかお)
公益財団法人	
ふくしま海洋科学館理事長	古 川 健 (ふるかわ たけし)
磐城流域いわき地区	
林業活性化センター事務局長	鈴 木 元 長 (すずき もとなが)

【主 催 者】

福島県木材青壮年協会会長 荒 川 敦 郎 (あらかわ あつろう)

【受 賞 者】

福島県知事賞	第1部	舟 山 凜太郎 (ふなやま りんたろう)
〃	第2部	木 村 惺 (きむら せい)
福島県教育委員会教育長賞	第1部	安 西 来 真 (あんざい くるみ)
〃	第2部	阿 部 優 菜 (あべ ゆうな)
関東森林管理局長賞		吉 田 樹 生 (よしだ たつき)
いわき市長賞		和 田 千 広 (わだ ちひろ)
福島民報社長賞		齊 藤 隆 明 (さいとう たかあき)
福島県木材協同組合連合会長賞		高 萩 慎 (たかはぎ しん)
福島県林業会館理事長賞		舟 山 准之助 (ふなやま じゅんのすけ)
NHK福島放送局長賞		筈 崎 くるみ (はこざき くるみ)
ラジオ福島社長賞		高 野 修 斗 (たかの しゅうと)
福島テレビ社長賞		和 田 晃 義 (わだ あきよし)
アクアマリンふくしま賞		渡 邊 杏 (わたなべ あん)
福島県木材青壮年協会会長賞	第1部	松 本 麗 (まつもと うるみ)
福島県木材青壮年協会会長賞	第2部	石 井 そよか (いしい そよか)

開催の趣旨

【目的】

再生可能な循環型資源として広く知られている木材は、地球温暖化防止に極めて有効な二酸化炭素の固定の手段としても注目を浴びています。このように優れた特性を持つ木材を実際に自分で切ったり、削ったり、組み合わせながら、香り・色・肌触り等の木の持つ良さを実感することで、未来を担う子どもたちの感受性を豊かにするお手伝いをしながら、木材の利用推進を図ることとします。

【主催等】

- ◇ 主催 ◇ 福島県木材青壮年協会・株式会社福島民報社・福島県木材協同組合連合会
- ◇ 後援 ◇ 福島県・福島県教育委員会・関東森林管理局・いわき市・一般財団法人福島県林業会館・NHK福島放送局・株式会社ラジオ福島・福島テレビ株式会社・公益財団法人ふくしま海洋科学館・磐城流域いわき地区林業活性化センター
- ◇ 助成金 ◇ フォレスト助成金制度による協賛金事業

【応募資格】

- (1) 福島県内の小中学校の児童・生徒であること。
- (2) 木材及び林産物を主材料として利用・加工した創作品で、作品の大きさは一辺の大きさが60cmを越えないもの。

【審査基準】

- | | 配点（100点） |
|----------------------------|----------|
| (1) 子どもの頭で考え、子どもの手で作ったもの。 | 30点 |
| (2) 木の持ち味を活かし、独創性に優れていること。 | 30点 |
| (3) 機能、デザインが優れているもの。 | 20点 |
| (4) 工作技術が優れているもの。 | 20点 |

経過説明

【審査内容】

1. 出展作品数 総数455点(22校)
うち、各校より推薦のあった70点について審査した。
2. 審査会 令和5年9月15日いわき・ら・ら・ミュウにおいて、次の審査委員により「入賞者名簿」のとおり各賞が決定された。

◇審査委員◇(敬称略)

<審査委員長>

福島大学人間発達文化学類教授	新井 浩
関東森林管理局磐城森林管理署長	高塚 慎司
福島県農林水産部林業振興課技師	吉岡 圭太
福島県教育長義務教育課指導主事	米本 順一
いわき市農林水産部林務課長	根本 和弘
福島民報社いわき支社長	円谷 真路
福島県木材協同組合連合会専務理事	前田 洋
福島テレビいわき支社長	鈴木 孝雄
ふくしま海洋科学館理事長	古川 建
福島県木材青壮年協会会長	荒川 敦郎



【そ の 他】

3. 全国コンクールへの参加

上位入賞作品については、令和6年1月～3月開催の全国コンクールに出展し、さらに入賞した作品については、令和6年6月8日長野市で開催される日本木材青壮年団体連合会全国会員大会会場において表彰される。

4. 作品の展示及び展示期間

令和5年9月16日（土）～9月17日（日）

於：いわき・ら・ら・ミュウ 2階 会議室（いわき市）

令和5年9月23日（土）～10月1日（日）

於：アクアマリンふくしま（いわき市）

令和5年10月8日（日）

於：小名浜公民館（いわき市）

受賞作品は県木連のホームページからも見ることができます。

木工工作コンクール記事 URL

<http://www.fmokuren.jp/publics/index/21/>

QR コードからも該当記事に繋がります。



講 評

第 48 回福島県児童・生徒木工工作コンクール審査委員長

福島大学人間発達文化学類教授

新 井 浩

第 48 回福島県児童生徒木工工作コンクールの審査がいわき市ら・ら・みゅうで行われました。その審査結果について講評を交え報告します。

今年度は新型コロナ感染症も 5 類に移行し、造形活動に取り組む気持ちも明るくなってきました。それは作品作りにも反影して、伸び伸びと作られた作品や力のこもった力作がたくさん会場に並んでいました。

福島県知事賞第 1 部に選ばれた^{あなやまりんたろう}舟山凜太郎さんの〈たこつぼに入るたこ〉は流木の入り組んだ動きとそこに付けた吸盤が深い味わいを持っていました。シュロを編んだ壺の丁寧な作りと一緒に、強い質感とダイナミックさを感じる優れた作品と感じます。良いものを作ろうとする意欲が旺盛に感じられる知事賞にふさわしい作品でした。

福島県知事賞第 2 部に選ばれたのは^{きむらぎ}木村惺さんの〈木龍〉です。砂浜で見つけた不思議な形の流木が竜の頭に見えたという、イメージの豊かさにまず感心しました。それに確かな存在感を与えるために細かな枝を歯として並べたり、松笠の鱗片を鱗として付けたりした気持ちの込め方が見事で、こちらも知事賞にふさわしい作品でした。

県教育委員会教育長賞第 1 部は^{あんざいくるみ}安西来真さんの〈くじらのジャンプ〉に決定しました。昨年度知事賞の「海でおよぐいか」も見事でしたが、「くじらのジャンプ」は流木から発想するイメージの豊かさ、動きのあるかたちも、部分的に着色した深いブルーの色も素晴らしいセンスで見事でした。

県教育委員会教育長賞第 2 部は^{あべゆうな}阿部優菜さんの〈ツリーハウス〉が選ばれました。輪切りにした枝で階段をつくっていますが、その旋回して登っていく様子がとても素晴らしい工夫だと感じました。また全体の造形バランスも見事で、材料をどう組み合わせようかという工夫が見事でした。

関東森林管理局長賞に選ばれたのは^{よしだたつき}吉田樹生さんの〈空まで届け ねがいをこめてハウス〉でした。左右互い違いの階段を登ると、とても見晴らしの良さそうな建物があり、夏は涼しそうな風が、冬は備え付けられた暖炉が暖かそうで、とても素敵でした。

いわき市長賞に選ばれた^{わだちひろ}和田千広さんの〈夏の砂浜〉は、前回の〈秋の散歩道〉に引き続き季節感がとても感じられる作品です。麦わら帽子とハイビスカスの花の異なったかんなくずの使い方に工夫が感じられ、また夏の思い出を表現したい気持ちがよく出た作品で好感が持てました。

福島民報社長賞に選ばれたのは^{さいとうたかあき}齋藤隆明さんの〈沈没船〉でした。海の底に眠る沈没船がイメージ豊かに割り箸で作られていました。作者のコメントからも、最初のイメージだけではなくもっと良くしようとする旺盛な意欲が感じられ、とても良いと感じました。

高萩慎^{たかはししん}さんの<麒麟>は県木連会長賞に選ばれました。川で拾った流木が麒麟に見えるよう組み立てた作品は風合いが豊かで、飾っておきたくなるような愛着の持てる作品に仕上がっていました。

舟山准之助^{ふなやまじゅんのすけ}さんの<パパのトラック>は県林業会館理事長賞に選ばれました。お父さんがいつも運転しているトラックでしょうか。お父さんに教わりながら難しいところを作ったというコメントから、たくましく働く様子を親子一緒に作っていく姿が想像できました。

NHK 福島放送局長賞に選ばれたのは菅崎^{はこがき}くるみさんの<穴をのぞくと…>です。ウロになった木を見つけ、そこに音楽隊やお客さんを配置した作品です。木の内部に包まれている感じや向こうから光が届く感じに良く気付き、上手く作品化したなど感心しました。

ラジオ福島社長賞には高野^{たかのしゅうと}修斗さんの<夏の打ちあげ花火>が選ばれました。花火が夜空で大きく爆発した様子を紅葉した葉や松笠で作っています。高い位置に上げた花火と、下に見ている人を配置したことで、ダイナミックな動きのある作品になりました。

福島テレビ社長賞に選ばれた和田^{わだ あきよし}晃義さんの<エジプト>では、木っ端を巨大石材に見立ててピラミッドとスフィンクスを作っています。全体の質感が素晴らしく、またエジプト展で見たピラミッドの石材がずれた様子まで再現しようとした意気込みが素晴らしいです。

アクアマリンふくしま賞は渡邊^{わたなべあんな}杏さんの<なつの生き物>に決定しました。カマキリやクワガタなどが丁寧に作られていて、脚に使った小枝と迫力のあるカマやクワガタの対比が味わいにつながっていました。ノコギリやドリルの使い方もとても良かったです。

県木青協会賞第1部に選ばれた松本^{まつもとゆうな}麗さんの<森の一家>では小さな人や鳥が大きな鳥の巣を見守るように作られていて、木を曲げて作る体験や木をつなぎ合わせて作る技が効果的に使われていました、形のバランスや色の使い方もとても効果的でした。

石井そよかさんの<山登り>は県木青協会賞第2部に選ばれました。お父さんと登山に行った安達太良山がしっかりと作り込まれて、ロープウェイのロープやゴンドラが作品を引き締めていました。思い出が溢れるようなとても素晴らしい作品と感じました。

今回の木工工作コンクールでは小学生の子どもたちが伸び伸びと作っている様子を見ることができました。また、中学生も出品するなど「作りたい」という気持ちが伝わってきました。福島県は東日本大震災とそれに続く原発震災、そして近年のコロナ感染症の流行など、私たちの心身を脅かす事態が発生して、伸び伸びと製作する環境が損なわれました。それがようやく震災前の水準に戻り始めたコンクールであるように感じました。

一人一人が存分に力を発揮したり、出来なかったことが出来るようになったりする事はとても素晴らしい事です。

さて、近年の研究で人が何かを認識する、いわゆる認知能力は人によって大きな違いがあることがわかってきました。言葉を聞いたり話したりすることが十分にできても、文字情報になると認識することが困難になるディスレクシア。周りの人や風景を観察したり感じ取ったりする事は十分にできても、頭の中でそのイメージを思い描くことが困難になるアフアンタジア。

これら二つは学習障害と呼ばれ極端な例と思われるかもしれませんが、人の認知の仕方は多かれ少なかれ人による違いがあるようだ、と研究によって明らかにされてきました。

こんなことを聞くと不安を感じる人もいると思いますが、これらのことは研究が進んだからわかってきたことです。ずっと昔から人は、人によって異なる認識の仕方を持っていましたから、人によって認識の違いがあることはごく普通の状態なのではないでしょうか。

それを私たちは学習したり経験したりすることで、得意不得意に気付いたり、それを克服したり、得意不得意を持ったままでも上手く社会と関わる手立てをその人なりに獲得したのではないのでしょうか。

だから文字の認識が困難であっても、一国の元首として責任を果たすことができたり、映画界で主演として長く活躍することができたりします。

大切なことはみんな同じ一つのことを学ぶというだけでなく、一人一人が自分に合わせて力を伸ばしたり困難を克服したりする多くの経験をしていくことだろう、そしてそれを応援したり支援したりすることだろうと考えます。

文字や数を学んだり、生き物や社会の仕組みを学んだりする事と並んで、木工工作の活動を通して子どもたちの心と体が存分に働き、何かを成し遂げて更なる自信や力が身に付いてくることを強く願って、コンクールの講評の言葉といたします。

入賞者名簿

【最優秀賞】

福島県知事賞 1 部	たこつぼに入るたこ	いわき市立 泉小学校	4 年	あなやまり なるろう 舟山 凜太郎
福島県知事賞 2 部	木龍	いわき市立 磐崎小学校	5 年	きむら せい 木村 惺

【優秀賞】

福島県教育委員会 教育長賞 1 部	くじらのジャンプ	福島市立 野田小学校	3 年	あんざい くるみ 安西 来真
福島県教育委員会 教育長賞 2 部	ツリーハウス	いわき市立 泉北小学校	5 年	あべ ゆうな 阿部 優菜
関東森林管理局長賞	空まで届けねがいをこ めてハウス	いわき市立 上遠野小学校	4 年	よしだ たつき 吉田 樹生
いわき市長賞	夏の砂浜	いわき市立 小名浜第二小学校	6 年	わだ ちひろ 和田 千広
福島民報社長賞	沈没船	いわき市立 小名浜第三小学校	6 年	さいとう たかあき 齊藤 隆明
福島県木材協同組合連合会長賞	キリン	いわき市立 高野小学校	6 年	たかはぎ しん 高萩 慎
福島県林業会館理事長賞	パパのトラック	いわき市立 泉小学校	1 年	ふなやまじゅんのすけ 舟山 准之助
NHK福島放送局長賞	穴をのぞくと…。	いわき市立 植田小学校	5 年	はこざき 管崎 くるみ
ラジオ福島社長賞	夏の打ちあげ花火	いわき市立 泉北小学校	4 年	たかの しゅうと 高野 修斗
福島テレビ社長賞	エジプト	いわき市立 小名浜第二小学校	3 年	わだ あきよし 和田 晃義
アクアマリンふくしま賞	なつの生き物	いわき市立 中央台東小学校	3 年	わたなべ あん 渡邊 杏
福島県木材青壮年協会 会長賞 1 部	森の一家	いわき市立 小名浜第三小学校	4 年	まつもと うるみ 松本 麗
福島県木材青壮年協会 会長賞 2 部	山登り	いわき市立 郷ヶ丘小学校	6 年	いしい そよか 石井 そよか

【入選】

福島県木材青壮年協会長賞	いかだのおうち	いわき町立 御厩小学校	1年	えんどう まき 遠藤 麻姫
	きりん	いわき市立 磐崎小学校	1年	もり ひかる 森 妃香瑠
	きょうりゅうのかたち	いわき市立 平第五小学校	2年	あんどう だいき 安藤 大起
	竹のコップとはし	いわき市立 湯本第一小学校	2年	さとう しゅうや 佐藤 修也
	リンゴを食べているイモ ムシ家族	いわき市立 小名浜第一小学校	3年	かんだ ひな 神田 陽風
	キャンプ用折りたたみテ ーブル	いわき市立 小名浜第一小学校	5年	さとう だいしん 佐藤 大心
	オシャレな家	いわき市立 御厩小学校	5年	えんどう さき 遠藤 早姫
	只見線	柳津町立 柳津小学校	5年	わたなべ じょう 渡部 丈
	スカイツリー	いわき市立 御厩小学校	5年	のざき りゅう 野崎 龍
	ティラノサウルス	いわき市立 夏井小学校	6年	はこざき しゅうか 箱崎 柊香
	高級なもも	いわき市立 好間第一小学校	6年	すずき かける 鈴木 翔
	にんじん	いわき市立 好間第一小学校	6年	やまぐち とうま 山口 冬真
	小物をいれるたな	いわき市立 綴小学校	6年	はらだ くわ 原田 空和

☆☆☆第48回福島県児童・生徒木工工作コンクール入賞作品☆☆☆

(敬称略)

福島県知事賞 1部



「たこつぼに入るたこ」

いわき立泉小学校
4年 舟山 凜太郎

福島県知事賞 2部



「木龍」

いわき市立磐崎小学校
5年 木村 惺

福島県教育委員会教育長賞 第1部



「くじらのジャンプ」
福島市立野田小学校
3年 安西 来真

福島県教育委員会教育長賞 第2部



「ツリーハウス」
いわき市立泉北小学校
5年 阿部 優菜

関東森林管理局長賞



「空まで届けねがいをこめてハウス」
いわき市立上遠野小学校
4年 吉田 樹生

いわき市長賞



「夏の砂浜」
いわき市立小名浜第二小学校
6年 和田 千広

福島民報社長賞



「沈没船」
いわき市立小名浜第三小学校
6年 齊藤 隆明

福島県木材協同組合連合会長賞



「キリン」
いわき市立高野小学校
6年 高萩 慎

福島県林業会館理事長賞



「パパのトラック」
いわき市立泉小学校
1年 舟山 准之助

NHK福島放送局長賞



「穴をのぞくと…。」
いわき市立植田小学校
5年 笹崎くるみ

ラジオ福島社長賞



「夏の打ちあげ花火」
いわき市立泉北小学校
4年 高野 修斗

福島テレビ社長賞



「エジプト」
いわき市立小名浜第二小学校
3年 和田 晃義

アクアマリンふくしま賞



「なつの生き物」
いわき市立中央台東小学校
3年 渡邊 杏

福島県木材青壮年協会長賞 第1部



「森の一家」
いわき市立小名浜第三小学校
4年 松本 麗

福島県木材青壮年協会長賞 第2部



「山登り」
いわき市立郷ヶ丘小学校
6年 石井 そよか